

# 道徳プラスの授業実践（公開授業）を通して

教諭 石川 尚樹

## 1 はじめに

茨城県では平成 28 年度より、県立高等学校の 2 年生において、ホームルーム活動の時間で年間 10 回の「道徳プラス」を実施しています。しかしながら、私自身はこれまで、道徳プラスの授業を実施したことはおろか、公開授業に参加したことすらありませんでした。決して道徳プラスを無視していた訳ではなく、担当学年が 2 年生にならなかつたためです。そのため、高校 1 年生で実施する「道徳」と道徳プラスの違いや、道徳プラスを実施することで、生徒のどのような能力を育むことができるのかといった基本的なことすら、正しく理解していませんでした。そんな私が、今年度本校に赴任し、担任をすることになった学級で道徳プラスの公開授業を実施するまでに見たこと、聞いたこと、準備したこと、そして公開授業を実施して感じたことを書き残したいと思います。

## 2 公開授業を実施するにあたって

道徳プラスに対する自らの理解を深め、授業をする上で重要なポイントを学ぶために、平成 30 年 8 月 10 日（金）に実施された、第 2 回「道徳プラス」実践セミナー兼豊かな心育成コーディネーター研究協議会に参加しました。このセミナーでは、県高校教育課の長島利課長補佐から協働型の模擬授業を、渡邊哲郎指導主事から討議型の模擬授業を受けることができました。また、茨城大学教育学部の小川哲也教授から「道徳プラス授業実践の分析と指導上の注意点」について講義をして頂きました。このセミナーでは、道徳プラスとはどのようなものか、どのような点に留意して授業を展開すべきなのかといった、指導を行う上で中核となる重要な事を学ぶことができました。特に参考になった点を以下にまとめます。

### (1) 道徳プラス授業実践の分析と指導上の注意点について

- ・道徳プラスでは、「自律」と「自立」ができる高校生の育成を目標としている。すなわち、「合意形成」や「体験活動」が必要であり、討議型授業と協働型授業を通してこれらを経験することができる。
- ・文部科学省専門家会議の報告書が例示した「質の高い指導」とは、①読み物教材の登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えること（自我関与）②人生で出会う様々な問題について議論しながら、主体的に考えること（問題解決的な学習）③役割演技（ロールプレイング）などで、実感を伴って理解すること（体験的な学習）である。
- ・茨城県教育委員会のパンフレット（平成 29 年 3 月）では、道徳の 3 つの学習（①読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習②問題解決的な学習③道徳的行為に関する体験的な学習）のねらい等が示されており、この 3 つの学習は全て、「考え、議論する道徳」である。
- ・「考える道徳」とは、自分の経験・体験や異なる感じ方・考え方との関わりで多面的・多角的に考えられる授業と、道徳的な問題や課題の発見・解決のために主体的に考えられる授業のことであり、「議論する道徳」とは、自他の価値観の違いを知り、自己の意見を高めていける授業、互いの価値観や意見の相違を主体的・協働的に議論できる授業のことである。
- ・教員はファシリテーター（対話促進者）になることを意識する。

### (2) 協働型の題材について

- ・協働型の授業は、行動しようと思っても、具体的な行動を体験していないので実際には「行動しない、できない」生徒たちが、ロールプレイングを通して、その場に相応しい道徳的行動ス

キルを身につける授業である。

- ・授業は①ペアワーク（相互インタビュー）→②グループワーク（意見交換）→③ペアワーク（ロールプレイング）と展開する。代表ペアが前でロールプレイングを行い、良かった点についてシェアリングを行う。
- ・高校生がロールプレイングをするには準備が必要である。理性でやろうとしないものをやれるように、日常から非日常へと移行する環境作りに留意し、順序立てて「ウォームアップ」をする必要がある。

### (3) 討議型の題材について

- ・討議型の授業は、教材の登場人物と自我関与しながら、グループによる意見交換から全体討議に進み、合意形成に到達する話し合い活動を主とする授業である。
- ・理想は双方向から歩み寄った合意形成だが、合意形成をするプロセスを体験させることが重要であるため、時間的にも一方向からの歩み寄りを考えることが多い。
- ・話し合いの活動中に本題から外れた話が出るため、軌道修正をするのがファシリテーターの役割である。
- ・討議型授業には2つの道徳的意義がある。1つは、教科授業とは違い学力差によらない意見表明が可能になっている「グループによる自由な意見表明」の経験が、生徒の自尊感情を高めるために役立つこと。もう1つは、意見の相違を超え歩み寄りを図る「合意形成を目指す話し合い活動」の経験が、社会人として必要なスキルの向上に直結することである。

## 3 教材の選定と指導案の作成

今年度異動してきたこともあり、学級担任として、学級に在籍する生徒との関わり合いを多く持つように意識して日々の学校生活を送っていました。そうした日々の中で、本校生徒の持つ優しさや、他者を思いやる気持ちを様々な場面で感じることができました。また、公開授業までに、クラスマッチや文化祭、修学旅行などの学校行事を経験することができました。クラスマッチでは、出場種目が偏り、男子と女子のどちらかは、希望と異なる種目で出場をしなければならなくなりましたが、大きく揉めることも無く、出場種目を変更することができました。また、文化祭では初めに希望していた飲食関係の模擬店を出店することができなくなってしまいました。ホームルーム代表が中心となって再度話し合いを持ち、模擬店の代案を考えることができました。さらに、修学旅行では、クラス別研修の日程案として、神戸と大阪が提案され、それぞれのメリット・デメリットを比較した上で、学級で話し合っただけで決定することができました。どの行事でも、生徒が話し合い、互いの意見に耳を傾け、合意形成を図る姿を見ることができました。自分のことながら、良い生徒たちの担任をできていると感じていました。

その一方で、話し合いの経験が増えると、問題も出てきていました。話し合いの中でも、全体としての大きな方向性を決める段階では、全員が参加することができています。そのため、学級全体としての良い雰囲気が作られ、そのまま順調に全てが決まっているように見えていました。しかし、話し合いのサポートをする立場として学級全体を見ていて、ある生徒が話し合いの輪から外れ、時には友人とおしゃべりに興じていることに気が付きました。もちろん、話し合いの後に、個人的に指導を重ねました。その場では理解・反省したように見えるものの、話し合いに自分が参加せずとも議題が進んでいってしまう場面になると、徐々に話し合いからフェードアウトしてしまいました。このままでは生徒間の関係にも悪影響が生じるため、公開授業という非日常の授業を活用し、話し合いからフェードアウトする生徒にはこれまでとは別なアプローチの指導を、それ以外の生徒にも、「誰かを責めている」のではなく、「自分達の話し合いはやはり素晴らしかったのでこれ

からも継続したい」と感じてもらえるような道徳プラスを展開したいと考えました。

前置きが長くなりましたが、このような経緯で、協働型4「みんな仲間のはずなのに～役割と責任～」を公開授業で実施することに決めました。文化祭で話し合いに参加せず、それをクラス代表にとがめられた生徒が反発する内容です。あまりにも私が担任する学級の状況に近いので、初めは話し合いからフェードアウトする生徒を責める雰囲気になってしまうのではないかと心配もしました。しかし、実際の文化祭の話し合いでは、細部まで全員が参加して模擬店の内容を決定することができたように感じたため、この教材をそのまま活用しても大丈夫であろうと判断し、保険として、成功した文化祭の画像を活用したスライドショーを作成した上でこの教材で授業を行いました。

指導案については、次の通り作成しました。第3回「道徳プラス」実践セミナーとして平成30年11月6日（火）に実施された茨城県立明野高等学校での「道徳」、道徳プラスの公開授業に参加し、その後本校の教頭先生からも御指導を頂いたことで、元の教材に比べ、内容を大幅に削減してあります。本来のペアワーク→グループワーク→ペアワーク→シェアリングの流れも変更し、生徒一人ひとりが実感を伴った理解をするために、ロールプレイングをする時間を多く確保しました。

茨城県立中央高等学校（全日制）

第2学年3組 「道徳プラス」学習指導案

		指 導 者	石川 尚樹
主 題 名	役割と責任、協力	内容項目	4-(4)
ねらい	集団は、各人が自己の役割と責任を理解し、成員相互の協力があつて維持されるものである。利己心や偏った仲間意識を克服し、協力し合つて集団生活の向上に努める道徳的な実践意欲と態度を育てる。		
資 料 名	みんな仲間のはずなのに ～役割と責任～ (茨城県教育委員会)		
展		開	
	学習活動（発問と予想される生徒の心の動き）	指導上の留意点	
導 入	○ ねらい  今日は、集団の中での役割や、協力の仕方について、少し考えてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力して取り組んだ行事の動画にすることで、特定の生徒を責める雰囲気を作らないよう留意する。</li> <li>大きな役割を担っていた生徒と裏方で頑張ってくれた生徒の指名のバランスに留意する。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭とクラスマッチの動画を見る。</li> <li>動画を見て学校行事での自分の役割を思い出す。</li> </ul> ※何人かを指名し、どのような役割があったか質問する。		
展 開	集団で何かを決めるときに、どのような問題が起こるのでしょうか。  では、学校行事を例にしよう。文化祭や体育祭などを成功させるためには、どんなことに注意すればいいのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>黙読しながら聞くように指示する。</li> </ul>	
	※【資料】を提示し、生徒を指名して音読をさせる。  ① なぜ模擬店のメニューは決まらなかったのでしょうか。  ※数名を指名し、意見を聞く。		

展 開	<p>※【資料】の発言を板書し、各登場人物がどんな発言をしたのかを再度確認する。</p> <p>○ロールプレイング I</p> <p>二人一組のペアになりましょう。二人でじゃんけんをして、勝った人がHR代表役、負けた人が女子生徒役になりましょう。実際にHR代表と女子生徒になった</p>	<p>・掲示用の資料を準備しておく。</p> <p>・アイスブレイクとして自己紹介・握手の時間を作る</p> <p>・他者の演技を絶対に馬鹿にしないこと、演技者はふざけずに演じることを約束として提示する。</p> <p>・台詞の細部にはこだわらず、主旨が合っていれば良いので堂々と演じるように指示する。</p> <p>・ロールプレイングは短時間でを行うため、時間に留意しながら実施するよう指示する。</p> <p>・プロジェクターでタイマーを表示し、残り時間を把握しやすいようにする。</p> <p>・前での演技が終わったら拍手をするよう促す。</p>
	<p>②</p> <p>※ペアを指名し、前で演じてもらう。</p> <p>HR代表を演じてみて、どのように感じましたか。</p> <p>※選出したペアのHR代表の生徒に、気持ちを尋ねる。</p>	
展 開	<p>○ロールプレイング II</p> <p>それでは、『HR代表はどのように声を掛ければ、女子生徒は話し合いに参加すると思いますか。また、女子生徒はどのような返答をすべきでしょうか。』ペアで話し合い、出た意見をもとに、役を演じてみましょ</p>	
③	<p>※ペアを選出し、前で演じてもらう。</p> <p>○シェアリング</p> <p>今の演技を見て、ペアの相手にどこが良かったのか発表して下さい。</p> <p>※数名を指名し、意見を聞く。</p>	
終 末	<p>○まとめ・振り返り</p> <p>『集団で一つのことを成功させる際、どのようなことに注意すればうまくいくでしょうか。また何が大切でしょうか。』ワークシートにまとめましょう。</p> <p>※全員に役割があることを再認識し、それぞれが責任を持って役割に従事する大切さを考えさせる。また、協力して取り組むことの意義を生徒に働きかける。</p>	
評 価	<p>・集団生活の向上を図る上での、成員相互の協力の重要性について考えることができていますか。</p>	
備 考		

#### 4 生徒の感想

授業のまとめ・振り返りで生徒がワークシートにまとめた内容を幾つか紹介します。

- ・注意する方も発言内容を考えてから注意することも大切なんだなと思いました。また、話し合いなので、そこはクラス全体で協力して、いい思い出を作る方向に向かえるのが一番いいと思いました。
- ・うちのクラスではあまりないことだったので難しかったです。でも実際に演じてみたりすることで楽しんで考えることができました。このようなことがあったら無視せず優しく声をかけて

あげようと思いました。

- ・話し合いの大切さが分かった。自分でしっかり意見を持って話し合いに参加しようと思った。
- ・うちのクラスってやっぱり良いクラスだなって感じた。
- ・この授業で協力することの大切さを改めて感じました。
- ・一致団結の大切さを改めて知った。成功させるには周りの人も注意することが大切。

以上のように、学級全体で協力することの重要性を再認識することができた生徒が多くみられ、ねらいはある程度達成できたように思います。

生徒の感想の最後に、話し合いでフェードアウトしがちな生徒の意見を紹介したいと思います。

- ・意見を協力して出すことが重要？

クエスチョンマークが付いており、若干の不安は残ります。

## 5 おわりに

この道徳プラスの公開授業を実施した後は、残念ながら学級での話し合いをする機会は得られていません。そのため、ある意味では、公開授業の「事後指導」を行う機会は、完全に失われてしまいました。その点は心残りの部分もありますが、生徒たちの「実感を伴った理解」は無駄にならないと思っています。

スマートフォンが普及し、情報化が進み、顔の見えないコミュニケーション方法に慣れきった生徒たちですが、道徳プラスを通して学んだ道徳的な行いを実行できる生徒が一人でも増え、互いに思いやりのある、安心して心休まる人生を送ってもらいたいと願っております。